



女性の活躍推進に必要な わたしの かかりつけ医

淀川キリスト教病院産婦人科医 副医長
柴田 綾子



<柴田 綾子> プロフィール
2011年群馬県医学部を卒業し沖縄で研修後、大阪で産婦人科研修を始める。女性の救急外来 たいま診断中！（中外医学社）、外来でできる女性ケア（羊土社Gノート）の執筆やHP（<https://lavoona.com/>）で女性の健康について紹介している。



淀川キリスト教病院
http://www.ych.or.jp/
TEL.0120-364-489
〒533-0024
大阪市東淀川区柴島1丁目7番50号

1955年に設立され現在は581床。年間1300件の分娩、200件の腹腔鏡手術を含め月経痛から婦人科がんで幅広く診療しています。

20歳の誕生日を迎えたら子宮頸がん検診

名古屋大学情報文化部に在籍中、発展途上国に旅行に行き女性や子ども立場が弱いと感じた柴田先生。

女性に関わり女性を守ることがしたいと、母子保健ができる職業を目指し、強い想いを持ち群馬大学医学部に入りなおしました。現在は大阪の淀川キリスト教病院で産婦人科専門医として勤務しています。毎年1万人の人が子宮頸がんになり、3千人が子宮頸がんで亡くなっている現状について、専門医として思うこと、そしてご自身の今後の活動について伺いました。

発見が遅れる子宮頸がん

子宮頸がんは、かなり進行しないと症状がでないため、発見が遅れることが多く注意が必要です。実際診察していても、もっと早く受診していただきたら、と思う方に出会います。例えば、お子さんがいる40歳代の女性で、病院に来たときにはすでに子宮頸がんが進行した状態で見つかった方がいました。生理でないときにも出血が続くことがあったようなのですが、子育てに忙しく、我慢して

子宮頸がんの予防

子宮頸がんは主にHPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染が原因でおこります。このウイルスは性交渉によって感染します。HPVは一度感染しても免疫によって排除されることがほとんどですが、HPVを上手く排除できずに感染が続きまうと子宮頸部

若い年齢の患者さんが多く、若年女性の罹患率・死亡率が上昇傾向にあるのです。

自治体から検診カードが届いても意識しないと検診は忘れがちになります。なので、20歳の誕生日を迎えたら一度は子宮頸がんの検診を受けよう！ という社会の雰囲気を作りたいと思っています。

早期発見として検診受診は重要ではありませんが、子宮頸がんは事前に予防できる唯一のがんです。

HPVワクチンを打つことで高い確率で予防できます。HPVワクチンは、小学校6年生以上の接種の公費による助成が2010年にはじまりました。しかし、ワクチン接種後に副反応が何件か報道され厚生労働省が積極的な接種勧奨を中止しています。その後、名古屋市による研究などで、ワクチンを接種した群と接種していない群で問題になった副反応の発生率は変わらず、一般的にその年頃の女性で起きる症状であることが報告

されました。こうした背景もあり産婦人科学会など複数の学会から接種の再開の要望をあげています。が、いまだに再開されていません。世界的に見て、HPVワクチンの普及率が低いのは日本だけです。世界の国ではほとんど子宮頸がんは減っているのに、日本では毎年1万人の女性が子宮頸がんになり、3千人が子宮頸がんで亡くなっており、この数は増えています。

溢れる情報、今後望むこと

生理のことや妊娠・出産のことに関して、インターネットに書かれている情報をそのまま信じてしまう方がいらっしやいます。メディアが発信してくれるおかげで以前と比べて生理痛を我慢せずに早めに産婦人科に来てくださる方が増えており、メディアの力も感じます。私もSNSを使って情報発信をしています。可能な限り、信頼できる情報源と一緒に発

なかなか受診ができなかったそうです。

がんの告知も私がしたのですが、お伝えした瞬間に呆然とされたあと大泣きされていました。我慢せず一年前にもし受診してくださったら……と医師として悔しい思いをした患者さんです。

子宮頸がんにかかっている、症状がなければほとんどの方は受診しません。症状が全然出なくて気付かない人が多いので、幼い子どもを残して亡くなる人が多く「マザーキラー」の異名が付けられています。

信するように心がけています。また、気軽に相談できるように、とLINEでラッコの妊娠相談室というのを開設しました。ぜひメディアを上手につかって、産婦人科にもっと気軽に相談に来ていただきたいと思っています。

産婦人科領域では、HPVワクチンのこと以外にもいろいろな問題があります。そのひとつに緊急避妊薬を含む避妊薬の普及が低いために人工妊娠中絶の件数が日本では多いことがあります。年間約100万人の出生数に対して、約16万件の中絶が行われています。医師として臨床で患者さんと向き合うだけでなく、女性が自分の身体を自分で守る力をつける支援と活動をしていきたいと思っています。

女性医療ネットワークでは、HPV上に子宮頸がん検診やHPVワクチンに関する相談可能な医療機関リストをつくっています。ぜひ活用ください。
<http://cnct.gr.jp/hospitalist/>

【参考】名古屋スタディ
<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2405852117300708>